

## 個別賃金水準の開示を

13 年春季生活闘争方針を決定

2013 年 1 月 25 日  
編 集 : J A M 本 部

JAM2013 年春季生活闘争方針を決定した第 22 回中央委員会が 1 月 18 日、東京の連合会館で開かれた。決定した方針では、65 歳までの高年齢者継続雇用や非正規雇用へ職場の取り組みを強化することとし、具体的な要求では、個別賃金要求基準として設定した高卒直入 30 歳・35 歳の標準労働者要求基準と JAM 一人前ミニマム基準への到達を基本として、個別賃金絶対額水準を重視していく。そのため、各単組は個別賃金水準の開示に努めることとした。政策実現の取り組みでは、7 月の参議院選挙でものづくりの代表として、とどろき利治・辻泰弘の両参議院議員の必勝へ向けた決議を採択。我われの目指す「働くことを軸とする安心社会」の実現へ歩みを止めることなく進めていくことを確認した。



<真中会長と固く握手する辻組織内議員>

第 22 回中央委員会には、①2013 年春季生活闘争方針②政策実現活動③第 15 回定期大会の開催についての議案と、特別決議として第 23 回参議院議員選挙必勝に向けた決議、財政健全化に向けた中間報告について特別報告が提案されそれぞれ満場一致で確認された。

また、春闘に関連してヤンマー労働組合とコマツユニオンから高年齢者雇用に関する取り組みについて事例報告を受け、希望者全員の 65 歳までの雇用確保や職場環境・働き方など課題の整理と交渉経過、今後の課題などが紹介された。



<ものづくり産業の政策を語るとどろき議員>

中央委冒頭あいさつに立った真中会長は、昨年末の総選挙にふれ、これからの日本の進む方向を問う選挙であったはずだが、民主党のガバナンスや東日本大震災への対応、外交などに国民の厳しい審判が下されたと指摘。JAMとして政治や民主党に対する立ち位置、今夏の参議院選挙が非常に大事だということを再確認すべきという観点から総括していくと述べた。

### 民主党、原点に返り再出発へ

中央委員会では民主党の大島章宏民主党代表代行から講演を受け、政策決定過程の明確化など民主党のあり方や総選挙の敗因などの反省とともに、働く仲間が手作りで作り上げてきた党であり、民主党結党の原点に返り、まじめに働く人を大事にする党としての立ち位置を明確にし、再出発すると決意が示された。